

令和４年度 後川内小学校 自己評価書及び学校関係者評価書

学校経営ビジョン： 「一人一人の子どもが将来の自立に向けて一日一歩前進する学校」を目指す。

評価基準 ４～期待以上（９０％以上） ３～ほぼ期待通り（７０～９０％） ２～やや期待を下回る（５０～７０％） １～改善を要する（５０％以下）

	評価項目	評価指標	具体的な数値目標	方策・手立てについての自己評価	評価		学校関係者評価コメント
					自己	学校関係者	
Ⅰ 学力の向上	１ 授業の工夫改善とＩＣＴ活用	○ 授業の改善（４つの視点）とＩＣＴ活用による「わかった」「できた」を実感できる学習指導に努める。	○ 教員全員実施の研究授業を行う。 ○ 学校評価アンケートの児童調査において、授業が「分かった」「できた」と答える児童を90%以上にする。	○ 主題研究で「わかる・できる」授業改善への取組を通して、ＩＣＴの活用を含めた授業力の向上がさらに進んだ。今後も継続して取り組んでいく。 ○ 学校評価のアンケート調査で、授業が「分かった」「できた」と答えた児童は、９６％であった。	３	３．５	・ ＩＣＴを活用した取組については、わかる授業を行う上では、大変有効であると感じる。一方で、辞書の活用した授業を見ることができたことは、安心感があった。(辞書引きの方法を知ることとはとても大事である。)・ 読書力向上については、家庭と一体となった取組の継続と見届けが大切である。
	２ 各種学力テストに向けた指導体制の確立	○ 学力テストの過去問題を活用した指導体制を充実させる。	○ 各種学力テストで、県・全国平均以上の正答率を目指す。	○ 個別指導の時間帯（朝の学習）と実施時期（学力テスト前）に過去問を中心とした指導を行った結果、基礎学力が向上した。	３		
	３ 読書習慣の育成	○ 学校司書や家庭と連携し、読書習慣を育成する。	○ 児童の読書目標達成 80%以上を目指す。	○ 個々に読書目標を設定し、達成に向けた指導を行った。目標達成への意欲面に個人差がみられる。 ○ 毎月１回の「うち読」は、取り組み方にばらつきがある。	２		
Ⅱ 心の教育・生徒指導の充実	１ 基本的な行動様式の徹底指導と規範意識の高揚	○ 日々の生活における基本的な行動様式が当たり前できるように指導を徹底する。	○ 学校評価アンケートの児童調査において、「あいさつ」「廊下歩行」「靴並べ」「清掃ができる」と答える児童80%以上を目指す。	○ 「あいさつ」「廊下歩行」「靴並べ」「清掃」の指導を重点的に行った結果、全ての項目で9０％以上の児童が目標を達成したと回答した	３	３．５	・ コロナ禍が継続していたものの、小中合同運動会や持久走大会などの小中学生が一緒に体験する行事が実施できて良かった。小学校と中学校が合同でできることのよさを大切にする事で、子ども達もより成長していけると感じている。 ・ 指示待ちの子ども達をつくらないために、自ら動く経験をさせる機会を保障することは大切である。
	２ 児童の主体性の向上	○ 児童が主体となる場や機会を増やし、主体性を育む。	○ 学校評価アンケートの児童調査において、「行事や集会活動に進んで取り組んだ。」と答える児童を80%以上にする。	○ 全校集会時や外部講師を招聘した講話等で積極的に発言できる児童が限定的である。 ○ 行事に向けた準備も含め、指示待ちの傾向がある。	２		
	３ 組織的な児童理解	○ 「育みの会」の充実による児童理解を深め、いじめ・不登校を未然に防ぐ。	○ いじめ・不登校解消率100%を目指す。	○ 「育みの会（月１）」「プチ育みの会（週１）」での情報の共有による児童理解と指導を確実に行ったことで、いじめや不登校を防ぐことができた。	３		
Ⅲ 健康安全の推進・体力向上	１ 望ましい生活習慣の育成	○ 個に応じた保健指導と感染症予防の習慣化で、自己の健康を守る意識と実践力を高める。	○ ハンカチ携帯、清掃後の手洗い等、感染症予防ができると答える児童70%以上を目指す。 ○ メディアとの付き合い方について、児童・保護者共に意識が高まる。	○ 清掃後の手洗いは、8０％の児童が行っていたが、ハンカチの携帯率は、6４％弱程度であった。 ○ メディアとの付き合い方については、養護助教諭による講話を実施し、町の一貫教育部会と連携して保護者への啓発をすることができた。	３	３．５	・ 外遊びをしている子ども達をよく見かける。ゲームにのめり込む子ども達が多いご時世であるが、積極的に体を動かしているのはとてもよいと思う。 ・ 今後とも子ども達が健全に成長していけるよう見守っていきたい。
	２ 体力向上	○ 体力向上プランに基づいた実践及び個に応じた指導により、体力アップを目指す。	○ 体力テストのDE段階 10%以下を目指す。	○ 体力テストの結果から、体力テストのDE段階の割合が1２％であった。運動の日常化も含めて、本校の課題となる体力項目の重点指導を図る必要がある。	２		
	３ 食育の推進	○ 日々の給食指導の充実や弁当の日を設定し、食に関する指導を推進する。	○ 弁当の日に取り組む児童100%を目指す。	○ 給食指導と弁当の日を継続し、「食」への関心を高めることができた。秋の遠足（1年～5年対象）では、全員が弁当の日に取り組んだ。	３		
Ⅳ 「信頼される学校」づくり	１ コンプライアンス対策の充実	○ コンプライアンスに関する研修と指導を継続し、法令違反等の不祥事ゼロを目指す。	○ 法令違反等の不祥事ゼロを目指す。	○ 研修会の実施に加え、定期的に行われる職員連絡会時に、具体的事案や啓発資料を活用した指導を継続したことで、職員による不祥事ゼロを達成した。	４	３．６	・ １、２年生との交流会は、新1年生にとって体験することで小学生になる期待が膨らむので、すごくありがたいです。可能であれば、図書館利用等、体験する機会があるといいです。
	２ 地域の力や特色を生かした取組の推進	○ 中学校・保護者・地域との連携を図り、地域の力や特色を生かした取組を推進する。	○ 小中合同の行事、中学校・保育所との活動、地域の行事への協力を行う。	○ 地域の方による協力をいただき、中学年を対象にした水源地見学を新たに実施することができた。 ○ 小中合同の運動会・持久走大会、新入学児と小学校2年生との交流会を滞りなく実施することができた。	３		

